

**製品名: Bcr ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe02912**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.63mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 143 kDa; Observed MW: 160 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCR
別名	ALL; CML; PHL; BCR1; D22S11; D22S662
遺伝子 ID	613
SwissProt ID	P11274
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

**背景**

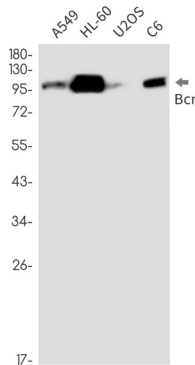
22番染色体と9番染色体間の相互転座により、慢性骨髄性白血病患者によく見られるフィラデルフィア染色体が生じます。この転座

の22番染色体切断点はBCR遺伝子内にあります。この転座により、BCRと9番染色体切断点にある遺伝子ABLの両方の配列からコードされる融合タンパク質が生成されます。BCR-ABL融合タンパク質は広く研究されていますが、正常なBCR遺伝子産物の機能は明らかではありません。BCR-ABL1のチロシンキナーゼ活性は制御されていないため、白血病細胞の不死化に寄与しています。BCRタンパク質はセリン/スレオニンキナーゼ活性を有し、p21racなどのキナーゼに対するGTPase活性化タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2020年1月]

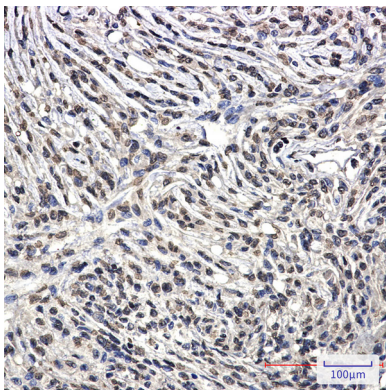
## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



Bcr抗体を使用したA549、HL-60、U2OS、C6溶解物中のBcrのウェスタンブロット分析。



Bcr抗体を使用したパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。